

第8回全日本教育系学生バドミントン選手権大会：優勝者のことば

男子シングルス 土平 孟（筑波大学）

今大会は「楽しみながら、常に自分の全力を」を自分の中で目標にして臨みました。その結果優勝することができたことは、新しい自分になるための良い機会になりました。今よりも強く応援されるような選手になれるよう、日々努力を続けていきたいと思っています。



男子ダブルス 鈴木 利拓・森田 新太郎（筑波大学）

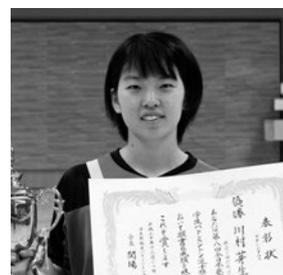
今回は、インカレ後から力を入れてきた、球の強さで勝負しようと考えていました。結果、自分の強い球は通用し優勝することができました。ですが、それ以外の課題が多く出て、決して納得のいく内容ではありませんでした。去年から組み始めたペアで1つ結果を残せたことは大きいですが、春リーグから始まる厳しい戦いを勝ち抜けるようまだまだ精進していかなければならないと感じました。（鈴木）



今回の試合は準決勝、決勝とファイナルゲームの終盤までわからない試合でしたが、最後は声を出して「絶対に勝つ」と自分に言い聞かせ気持ちで勝負し結果的に勝負所で勝つことができたのでよかったです。（森田）

女子シングルス 川村 芽生奈（共愛学園前橋国際大学）

今回の大会は、チャレンジ精神を持って最後まで戦いました。今までに実績を残すことができていなかったのが、今回この大会で優勝することができて、すごく嬉しく思います。この優勝は日々、卒業生の方や、一緒に練習している高校生の男子に相手をしてもらったり、これからの可能性を信じてもっと上を目指そうといつも声をかけて指導して下さる先生のお陰だと感じています。決して1人では掴めなかったことです。そのように、いつも応援して下さる方々がいるということをお忘れずに感謝の気持ちを持って、恩返しをするつもりでこれからも競技に取り組んでいきたいと思っています。また、大学でバドミントンに取り組めるのは4年間という限られた時間なので、最後に後悔することがないように、今を大切に練習に励んでいきたいと思っています。



この大会での経験を自信にするとともに、この結果に満足することなく、来年の大会に向けて努力し、成長していきたいと思っています。

女子ダブルス 安田 美空・香山 未帆（筑波大学）

一年間を締める大会で同校決勝が出来たことを嬉しく思っています。さらに私は、優勝すると意気込んで臨んだ全日本インカレでは二回戦で敗れ香山にも悔しい思いをさせてしまったので今回優勝できて本当に嬉しいです。2019年に向けたいいスタートを切れたと思うので、満足することなくさらにいい結果が出せるよう努力します。（安田）



去年に引き続き、優勝できたことについてとても嬉しく思います。今年は全体的に落ち着いた試合運びができたのではないかと感じ、去年からの自分自身の成長を感じ取れる大会となりました。

また、今大会は筑波大学が主管校ということで、運営に尽力してくれた4年生の方々や、チームメイトにも感謝しています。（香山）